

季 刊

生 活

第 8 号



Quarterly: SEIKATSU 8

Issue: Back room

生活工房
Lifestyle Design Center

バックヤード

2021

1・2・3

小豆ただしく2020年が過ぎて、
新しい1年がはじまります。

新年、2021年1月に開幕する展覧会では、
開館23年を経た生活工房の
“バックヤード”も大公開。

普段はスタッフしか入ることのできない場所に
眠っていた開館当時の資料や
過去の企画に関する品々を展示します。

季刊生活第8号の特集では、
本展の調査準備の様子をレポート。
こちらも普段はお見せできない
生活工房の舞台裏です。

今号の『生活』をとおして、
展覧会を通じて生活工房をより深く、
また違った角度からお楽しみください。

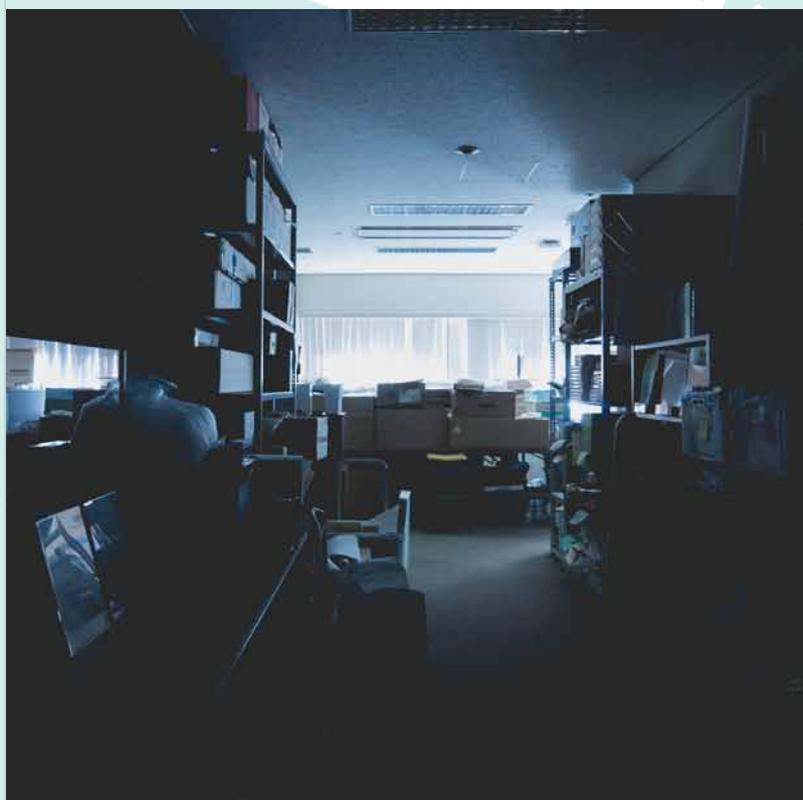
もくじ Contents

- 03 生活工房バックヤード展
「パーティ5」を追え!
- 08 下北沢をおよいで
- 09 世田谷のおとなりさん⑦
世田谷区代田のさやかさん
- 10 生活工房のイベント Event Guide
- 16 生活工房のご案内 Access Guide

cover photo: Yuki Akase

私たちの、これまでとこれから

生活工房 バックヤード 展



生活工房は、1997年に開館し、23年の月日が経ちました。開館以来、さまざまな生活のあり方とそれを支える文化やデザインをテーマに、展覧会やワークショップなどを実施してきました。

その資料や記録は今もバックヤードに保管されています。1月に実施する「生活工房バックヤード展」は、私たちのこれまでとこれからを知っていただく展覧会です。

生活やその周辺文化について考えてきた私たちが自分たちの歴史に切り込み、堆積した資料を掘り返すことで、“新しい生活”を考えるヒントが見つかるかもしれません。

また、コロナ禍で残念ながら中止となってしまった展覧会の資料もあわせてご紹介します。

この冊子では、「生活工房バックヤード展」のプロローグとして、バックヤードに残る資料の発掘の現場をレポートします。



「パーティ5」^{ファイブ}を追え!

生活工房バックヤード展の
プロローグ

開館から23年目を経た生活工房の
バックヤードに残された事業の記録や資料の数々。

この長い歳月でスタッフの入れ替わりもあり、
詳細が不明な資料もしまわられています。

そこで展覧会に先立ち、まずはバックヤードの
調査・発掘作業を開始しました。

text and photo: Katsuhiko Sugimoto

Chapter 1 怪しいビデオテープ



普段は生活工房のスタッフ以外は立ち入れない禁
断のバックヤード。業務用のラックには、資料や展
示物、成果物などが保管されています。まさに生
活工房の歴史がつまった場所です。

懐かしい
メディアの
数々

現在のスタッフではわからない年代モノの資料も多く、ラック内には
カセットテープ、カラーポジなど当時の事業を記録したアナログ資料
がゴロゴロ。これらをひとつひとつチェックしていたらどれだけ時間
がかかるのか……。バックヤード展の前途は多難!



「パーティ5」
???

そんな古い資料の大群を前に、どこから
手を付けていいのか悩む一行。ワークシ
ョップの記録など今や懐かしVHS(ビデ
オテープ)の一群の中に目を引くタイトルが。んんん、「パーティ5」と
は何だ? それに「パーティ5までの記録」「Afterパーティ5」もセット
になっています。「パーティ5」への高まる関心。これはどのような事
業だったのか。まずは映像を見てみなければ!



早速、
再生～

「パーティ5」の詳細を知るため、まずは「パー
ティ5までの記録」からチェック。そして、まず
モニターに映し出されたのは、見るからに異国
情緒あふれる調理風景。



「パーティ5までの記録」のキャプチャー

「記録」を見ると、インド人や韓国人のもとへグループで訪問。文化
や料理について話を聞いたり、試食をしたり、ワークショップのような
雰囲気。また別の日には、参加者は壁新聞のようなものも制作してい
ます。異文化交流の様子から、「パーティ5」の「5」は、五大大陸では?
との推論も。少し手がかりがありましたが、まだまだ事業の内容につ
いては不明なまま。そして、いよいよ本編をプレイ。

Chapter 3 目撃者を探せ

本編は、合奏のリハーサル風景や会場の準備などからスタート。テー
ブルには料理が並び、文字通りパーティの装いです。入場の受付を
するロビーには、外国の方の姿もチラホラ。やはり地域の異文化交流
を目的にしたイベントということでしょうか。ちなみに、1989年12月
3日に上北沢区民センターで実施されたことが内容から判明。



「パーティ5」のVHSのキャプチャー

14時、いよいよパーティはスタート。司会
の言葉に耳を澄ますと、このイベントは「5年後
に開館する〈世田谷文化生活情報センター〉※
の予備活動(プレイイベント)」であり、会場
では「ワークショップの発表」が行われるとアナ
ウンス。あの「記録」で作っていた壁新聞のようなものが発表されて
います。 ※生活工房、世田谷パブリックシアターを含めたキャロットタワーにある文化施設の総称。
少しずつ点と点が結ばれ、イベントの内容がわかり始めました。歓談
や合奏などパーティは進行。すると賑わう会場に見覚えのある顔が!
カメラを手に当日の記録をしている様子。あれは開館前から勤める若
き日のKさんでは。現在は生活工房を離れたスタッフのKさんは「パー
ティ5」のすべてを知る人なのか……。

これは、
あの人では!

ビデオを見終わり、Kさんから話を聞くことに——。

1989年に実施された「パーティ5」は、〈世田谷文化生活情報センター〉の開館5年前に行うことから命名され、区民の方々が異国の食文化に触れながら、地域交流を行うイベントでした。Kさんによると、生活工房の取り組みを検討する試験的な意味合いがあったようです。実際の開館は1997年なので年数に齟齬が生じますが、当時の予定よりも開館が遅れたからでした。



パーティ5のチラシ

実は、「パーティ5」に先立ち、「コミュニケーション工房」というワークショップが行われました。“ひとりひとりの国際化—新しい隣人たちとの普段着のつきあい”をテーマに、参加者が区内に暮らす外国人に「食」に関する取材を実施しました。その体験をより多くの人たちと共有するために「パーティ5」は開かれたのです。ワークショップや異文化理解といった事業は、その後の生活工房の特徴にもなりましたが、その原点がこの「パーティ5」にはあったのです。ビデオテープをきっかけに「パーティ5」の内容を掘り起こしてみましたが、このほかにバックヤードからはどのような資料が出てくるのか、ぜひ展覧会をご期待下さい。

バックヤード展の見どころ

《 幻となった2020年の展覧会 》

新型コロナウイルス感染症の影響で中止になってしまった企画の一端も紹介します。

● 火と人の日々 展

聖火が東京を走るはずだった2020年7月の2週間、火と人間の長いかわり合いについて考える展覧会を開催する予定でした。人類が火を使用するようになってからの約100万年を振り返りながら、火と人のこれからを探るべく、計画中でした。



● 1964年のホストファミリー 展



1964年10月22日撮影 (提供: 東京都)

1964年の東京オリンピックに関する記録を調べると、「民泊」についての報告が目にとまります。日本人の海外渡航が自由化された年に、「知らない外国人を自宅に泊めた」人たちが。幻となった本展では、当時のホストファミリーの証言を中心に紹介しながら、これからの多文化共生を考える予定でした。

2020年は、どういう年として記憶されるのでしょうか。国内だけでも、新型コロナウイルスの流行、東京オリンピックの延期、総理大臣の辞任など、大きな出来事は枚挙に暇がありません。激動の年、生活工房も例外ではありませんでした。予定していた展覧会やイベントの中止、延期、縮小、変更。暮らしの「根っこ」を掘りおこしてきた生活工房、その足元をみつめる一年になりました。どうやら私たちは非常事態にならないと、いつもの「生活」に気づかないようです。今回の展覧会では、そんな足元に眠っていた生活工房のアレやコレを引っ張り出して展覧します。バックヤードに眠るVHS、開館前の街歩き本や、いつかの展覧会の忘れ物。さらに中止になってしまった企画の顛末や、これからはじまる企画の展望もご紹介します。生活やその周辺文化について考えてきた23年間。これからの生活を考えるヒントがそのどこかに見つかるかもしれません。一部リニューアルしたギャラリー空間をフルに使って、バックヤードに眠っていた事々物々をご覧ください。

● 生活工房バックヤード展

1.23 (sat) ~ 2.21 (sun) 9:00 ~ 21:00 入場無料 月曜休み
会場: 生活工房ギャラリー

How will 2020 be remembered? There are too many events to mention in Japan alone, including the COVID-19 pandemic, the postponement of the Tokyo Olympic and Paralympic Games, and the resignation of the Prime Minister.

The Lifestyle Design Center, too, did not emerge unaffected from this tumultuous year. The exhibitions and events we had planned were either cancelled, postponed, scaled down, or modified. It was a year in which the Center took another look at itself as an organization that explores the roots of life. It seems our daily lives do not catch our attention unless we are in a state of emergency.

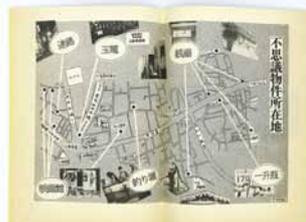
This exhibition presents all kinds of materials belonging to the Center, which were tucked away in the back room. It displays VHS tapes that chronicle past activities, a walking guide that was published at the time of the Center's opening, miscellaneous items from previous exhibitions, and some items from cancelled events. It also offers a peek of upcoming events.

The exhibit captures the 23-year history of the Center that has reflected on lifestyles over the years. You may find something that provides a hint into future lifestyles. At this exhibition that makes full use of the partially renovated gallery space, visitors can enjoy viewing the treasure trove of records and items that were kept in the back room.



photo: Yuki Akase

＼ ホームページで公開中 ＼



生活工房がお送りする期間限定WEBマガジンでは、生活工房バックヤード展で紹介予定のアレやコレを先行公開しています。月2回(1・15日)更新中です。

コラム 下北沢をおよいで

画家・イラストレーターの

さとうさかなさんが迷い込んだのは、サブカルの聖地・世田谷下北沢。人混みをおよいでたどり着いたお店を紹介します。

text and illustration:
Sakana Sato



絵を描き始めて音楽にも興味を持つようになった学生時代。その頃、一番聴いたのは90年代に活躍したフィッシュマンズだった。そのバンドの歌詞や本によく「世田谷」という言葉が出てきて、92年生まれで東京に土地勘がない私は、どんな時代でどんな場所だったんだろうかと思いを巡らせていた。

それから時がたって個展ができるようになり、少しずつ東京に行く機会が増えた頃、世田谷の下北沢に足を運ぶようになる。

どこか大阪のアメ村のような雰囲気もあって、知っている場所にきたような安心感と、知らないものに出会いに行くようなワクワク感があった。



街中をブラブラして、吸い込まれるように下北の「ヴィレヴァン」に入る。ここにくるとネット以上に情報が入ってくる感じがして、何か知らないことを知りたい私はとても多くの刺激をもらい、お土産屋さんで東京っぽいものを買うよりもたいそういい東京土産になった。

大阪に帰り、「ヴィレヴァン」で買った本やCDを眺めながら、東京で出会った場所や人たちの顔を思い浮かべて、また新しい絵を描く――。

そんなこともあったなと懐かしく愛おしく思う、私の記憶のバックヤードにしまっていた世田谷の思い出。

さとうさかな
画家・イラストレーター。
技法を決めず自由に制作し、個展での発表を続けている。ライブペイントや詩人との即興コラボレーションも行う。
<https://kana-sato.jimdosite.com/>



連載コラム 世田谷のおとなりさん⑦

さやかさん
ある日のおにぎり

photo: Ruri Kochi



世田谷区代田のさやかさんは、新代田と代田で暮らして2年目。2019年3月から、この場所で仕事をはじめました。

世田谷代田キャンパス内の「DAITADESICA フロム青森」。さやかさんが働くお店では、青森の新鮮なお米や野菜を販売しています。今回のおにぎりは、お店で人気のたくろん米を土鍋で炊いて、具材は好きな映画の劇中に登場するおにぎりをヒントにしました。

「以前は、映像関係の仕事をしていて。農業とは全く無縁だったので、今はチャレンジばかりです」。

そんな、さやかさんを支えてくれるのは、代田で暮らす先輩住民の方々。「いつも私の挑戦を応援してくれます。暗い顔をして歩いていると、一杯のんでく? と声をかけてくれたり。おとなりさんのご飯がわかるまでではないけれど、そのくらい距離の近い人が多い。だから代田が好きです」。

つぎの挑戦は、上映会を開催して近隣の方々と映画を楽しむこと。「これまでは気恥ずかしくて映画が好きだなんて言葉にできなかったです。でも、代田の人たちに出会えて好きなものを素直に認められるようになりました」。

代田の大切な人たちが楽しめる店にしたいと奮闘する日々。「まずはしっかり店頭にたてるようになりたいです。青森にいる生産者の思いは商品だけでは伝わりにくいので、私が言葉にしていけたら」と、笑顔で話してくれました。



- 〈さやかさんのレシピ〉
- ・お米…白米2合、5分づき米2合
 - ・焼き鮭…1切れ
 - ・梅干し…2コ
 - ・カツオ節…20g
 - ・塩…適量
 - ・のり…6枚
 - ・白ごま…適量

- A
- ・醤油…大さじ2
 - ・みりん・酒…大さじ1
 - ・砂糖…大さじ2分の1

〈つくり方〉
具材のおかかを作ります。フライパンにAを入れて火にかけ、煮立ってきたらカツオ節をいれます。汁気が飛んだら白ごまをいれ、少し炒めて完成です。ご飯をボールによそい、粗熱をとる。しっかり洗った手に適量の塩を取り、両手で擦り合わせ全体に広げます。手にご飯をのせたら真ん中にくぼみをつけたところに具材をいれます。軽く握ってのりを巻きます。

具材は
梅・鮭・おかか



ワークショップ／セミナーの申込方法

- 生活工房ホームページ：各プログラムページの申込フォームからどうぞ↓
 - 電話：03-5432-1543
 - 往復ハガキ：希望イベント名・希望日時・住所・氏名（ふりがな）・電話番号を明記の上、下記宛先まで
154-0004 世田谷区太子堂4-1-1キャロットタワー 生活工房宛
- ※新型コロナウイルス感染状況により、内容に変更が生じる場合があります。
※大変お手数ですが、来場前に生活工房ホームページ内Top Newsをご確認ください。



Exhibition

生活工房バックヤード展

1月23日(sat)～2月21日(sun) 9:00～21:00 入場無料
月曜休み 会場：生活工房ギャラリー

生活工房のバックヤードに眠るアレやコレを展覧します。
謎多きVHS、開館当時の街歩き本、いつかの展覧会の忘れ物。
さらに新型コロナウイルスの影響で中止になってしまった
企画の顛末や、新たな企画の展望もご紹介します。



photo: Yuki Akase

Seikatsu-Kobo Back Room Exhibition

Admission Free Closed on Mondays
Venue: Seikatsu-Kobo Gallery

関連プログラム

「バックヤード・ツアー!」

2月7日(sun) 14:00～14:30 会場：生活工房3～5F

スタッフが生活工房のバックヤードと全フロアをご案内します。
希望者にはアニュアルレポート10年分(計10冊/約1.8kg)も
プレゼント! 文化施設の23年の月日を感じてください。

参加費：無料/10名(先着)

申込：1月7日10:00より電話かHP(P10参照)にて



バックヤードに眠るVHS
VHS tape tucked away in the back room

Seminar

哲学対話 PARA SHIF

PARADIGM SHIFT(パラダイムシフト)とは、
当たり前と思っている考え方がガラリと劇的にわる体験のこと。
本企画は、哲学をめぐる対話から、日々の生活に“PARA SHIF”を
起こすことを目指す大人のためのゼミナールです。

※後日Web上で一部公開することを前提に両日撮影が入ります。



2020年開催の様子
Seminar held in 2020

Philosophy Dialogue PARA SHIF

Venue: Workshop Room B

①「翌日の医者」

3.27(sat) 14:00～17:00 会場：ワークショップルームB

私たちは、大震災や大事件などの「強烈な出来事」について
多くを語ります。しかし「その後」に続く生活の方にこそ、
語るべきことがあるのではないかと。非日常的な出来事の後に、
人はいかにして日常を取り戻し、新たに作り直していくのか？
精神科医・中井久夫が提示した「翌日の医者」という概念から考えます。

②「死ぬこと／生き延びること」

3.28(sun) 14:00～17:00 会場：ワークショップルームB

「私たちは生き延びるためにこそ思想を必要としている」と、
社会学者・上野千鶴子は言っています。
これまで思想は「死」について多く論じてきましたが、「生き延びる」という
当たり前の日常はどこか置き去りにされてきた感があります。
死について考察した哲学者・ハイデガーと上野の思想を取り上げながら、
現代の臨床について考えます。

講師：松本卓也(精神科医) 対象：18歳以上

参加費：各日3,000円/20名(抽選)

申込：2月28日(必着)までにHP(P10参照)にて

※詳細は12月中旬に生活工房ホームページでお知らせします。



Lecturer: Takuya Matsumoto

Exhibition

大平農園と畑のレシピ帖展

3月2日 (Tue)～5月9日 (Sun) 9:00～21:00 入場無料
月曜休み(祝日は除く) 会場:生活工房ギャラリー

23区内で屈指の農地面積を誇る世田谷。等々力に400年続く大平農園を通して、土と人、農業とのつながりを再考する展覧会です。世田谷の農業の歴史や、土壌の微生物・野菜・動物・人との円環について知り、有機農家と消費者からなる「若葉会」に、旬の野菜のおいしさを長く楽しむ知恵やレシピも学びます。

*関連イベントの詳細は2月下旬に生活工房ホームページでお知らせします。

Tale and Recipes of Ohira-Noen

Admission Free Closed on Mondays (exceptions: May.3)
Venue: Seikatsu-Kobo Gallery

Workshop

14歳のワンピース

制作:3.26 (Fri)～28 (Sun) 10:00～17:00 撮影会:4.25 (Sun)
会場:ワークショップルームA・B

“14歳の私”を記録するワンピースをつくります。自分の好きな言葉からイメージをふくらませて、心の模様をデザインし、シルクスクリーンの技法で布にプリントします。布は専門の工場で作成して仕立て、後日、それを着て撮影会も行います。

講師:飛田正浩 (spoken words project) 対象:中学2年生
参加費:4,000円/15名(抽選)
申込:3月1日(必着)までにHP(P10参照)にて

*詳細は1月下旬に生活工房ホームページでお知らせします。

14-year-old Dress

Venue: Workshop Room A・B



photo: YUKAI

Seminar

NPO・市民活動のためのステップ・アップ講座

これからの時代における市民活動のつながりを考える

3.6 (Sat)、3.14 (Sun) 14:00～16:30 会場:ワークショップルームA

本講座では、NPOをはじめとした地域活動に関心がある方を対象に、スキル向上のための座学や事例紹介、交流を行っています。今回は、コロナ禍での取り組みに焦点をあて、事例紹介や意見交換を通じて、市民活動団体同士のつながりやコミュニティづくりについて考えます。

企画進行:株式会社世田谷社

講師:呉哲煥 (NPO法人CRファクトリー代表理事)

対象:主に世田谷区内で活動するNPO法人、市民活動団体のスタッフや役員、関心がある方 参加費:各日1000円(1団体から複数参加の場合、2人目から半額)/30名(先着)
申込/1月25日10:00より電話かHP(P10参照)にて

*各回の詳細は1月下旬に生活工房ホームページでお知らせします。

Step-Up Course for NPO and Citizen Activities

Examining citizen activity interconnectedness in the coming era

Venue: Workshop Room A

News

穴アーカイブ:an-archive

せたがやアカカブの会 会員募集

昭和11～58年にかけて世田谷を記録した8ミリフィルムを手がかりに、私たちと映像の関係を結びなおす試み。映像鑑賞をきっかけに、個々の記憶や想像の断片を話しあう会の会員を募っています。会員それぞれの言葉は記録に残し、公開・発表しています。現在、感染防止の観点から、定期鑑賞会の代わりに、ハガキを介してご自宅から参加いただく特別編を実施しています。

●せたがやアカカブの会 入会方法

件名を「せたがやアカカブの会 入会希望」として、

1.氏名 2.電話番号 3.住所 4.動機や関心 を明記の上、メール (info@setagaya-ldc.net) にてお申込みください。

SETAGAYA AKAKAV CIRCLE is recruiting members



Seminar

朗読講座 豊かなことばの世界

①水曜講座(午前・午後)〈楽しい朗読〉

2.3 (wed)・10 (wed)・17 (wed)・24 (wed)

各回10:30~12:30 / 13:30~15:30

講師:岩井正(NHK日本語センター)

作品:芥川龍之介著『魔術』

②木曜講座(午後)〈はじめての朗読〉

2.4 (thu)・18 (thu)・25 (thu)・3.4 (thu)

各回13:30~15:30

講師:高橋淳之(NHK日本語センター)

作品:須賀敦子著『旅のむこう』

③金曜講座(午後)〈はじめての朗読〉

2.5 (fri)・19 (fri)・26 (fri)・3.5 (fri)

各回13:30~15:30

講師:金野正人(NHK日本語センター)

作品:江國香織著『晴れた空の下で』

会場:セミナールームA

ことばの持つ豊さ、力、輝きを「朗読」を通して体感します。

NHK日本語センターアナウンサーが講師となり、
声の出し方、読み方などを丁寧に指導します。

受講料(4回分):一般20,800円、せたがやアーツカード会員18,800円/
各クラス15名(申込先着) ※申し込みが少ない場合、閉講になることがあります。

問・申込:(一財)NHK放送研修センター

Tel 03-3415-7121(受付時間9:00~18:00) <https://www.nhk-cti.jp/>

関連プログラム

「豊かなことばの世界 朗読発表会」

3.7 (sun) 13:30~16:00

会場:セミナールームA・B

朗読講座受講生による公开发表会。

ことばが開く豊かな時間を体感してください。

参加費:無料/50名(当日先着、途中入退場可)

申込:不要、直接会場へ



Recitation Course: A World of Abundant Words

①Wednesday Course (morning - afternoon): Enjoyable recitation

②Thursday Course (afternoon): Beginners recitation

③Friday Course (afternoon): Beginners recitation

Venue: Seminar Room A

おたがね工房

〈生活工房スタッフからの回覧板〉

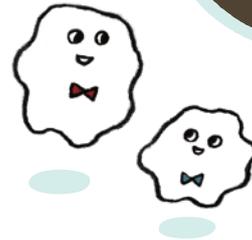
計画中の展覧会やイベントに情報提供いただける方を探しています。

ご協力内容の詳細は、電話・返信でお伝えします。

ぜひ、お気軽にご連絡ください。

展覧会の準備をしているよ。
世田谷区内の移動図書館と
子ども文庫の思い出や情報を
教えてほしいな!

ぼくたちも生活工房
バックヤード展の会
場にいるよ。みんなに
会えるといいなあ。



ご連絡先

メール info@setagaya-ldc.net

電話 03-5432-1543



クラシー(左) カワルン(右)
生活工房ワークショップルーム
A・コミュニティキッチンをめぐ
らに、生活工房内をただよい
ながら探検している妖精。おも
しろそうなイベントがあると、
ふわふわと姿をあらわします。
illustration: にしほりみほこ

季刊生活とは

もし、みえない誰かの生活と、ここで偶然出合ったら、
そこから、何が読めるでしょうか?

何もないようで、いつも何かが起きている。

季刊生活はあなたと誰かの日常を、

行ったり来たりする回覧板です。

If you happen to encounter the unseen life of another,
what, then, would you discover?

It may feel like nothing,
but something is always happening.

Seikatsu Quarterly is like a bulletin board,
traveling back and forth between your daily lives.

季刊生活
第8号

発行日:2020年12月15日

編集:生活工房 石山那緒子

編集協力:杉本勝彦

デザイン・編集協力:牧寿次郎

翻訳:株式会社インターブックス

印刷:株式会社八紘美術

発行:公益財団法人せたがや文化財団 生活工房

Quarterly:
SEIKATSU 8

Issue date: December 15, 2020

Editor: Lifestyle Design Center Naoko Ishiyama

Editing Cooperation: Katsuhiko Sugimoto

Design, Editing Cooperation: Jujiro Maki

Translation: Interbooks Co., Ltd.

Printing: Hakkou Bijyutsu Co., Ltd.

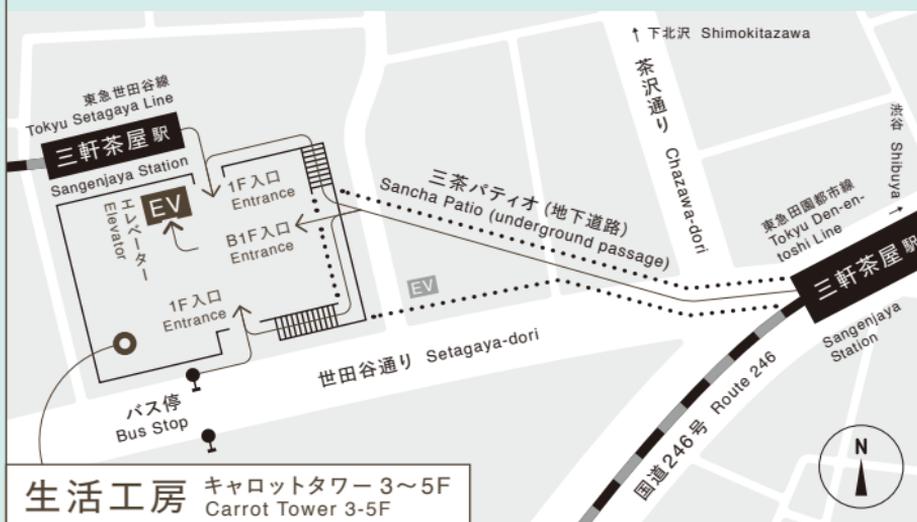
Issued by Lifestyle Design Center, Setagaya Arts Foundation

生活工房のご案内

※開館状況など詳細は
ホームページでご確認ください。

生活工房は
世田谷区が設置したユニークな文化施設です。
デザイン、文化、環境などをテーマに、
展示やイベントを開催しています。
また、コミュニティ・キッチンをはじめ、
展示、ワークショップ、セミナー、ミーティングなどに
利用できる部屋の貸出を行っています。

The Lifestyle Design Center is
a unique cultural facility established by Setagaya city.
Exhibits and events are held on themes of design, culture, environment, etc.
We have a community kitchen and rooms for exhibits, workshops,
seminars, and meetings available to rent.



生活工房 キャロットタワー 3～5F
Carrot Tower 3-5F

アクセス

- 東急田園都市線「三軒茶屋」駅 三茶パティオ口 徒歩5分
地下通路より1F入口またはB1F入口（東急ストア入口の右隣）に
入り、キャロットタワー内のエレベーターをご利用ください。
- 東急世田谷線「三軒茶屋」駅直結
- 東急・小田急バス「三軒茶屋」停留所そば

Access

- Tokyu Den-en-toshi Line: 5-minute walk from the Sancha Patio exit at Sangenjaya Station
Subway passage: 1F or B1F entrance, take the elevator inside Carrot Tower
- Tokyu Setagaya Line: Directly connected to the Sangenjaya Station
- Tokyu Bus, Odakyu Bus: Located near the Sangenjaya Station stop



お問い合わせ (公財) せたがや文化財団
世田谷文化生活情報センター

生活工房

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
Tel. 03-5432-1543 Fax. 03-5432-1559
Mail. info@setagaya-ldc.net

Contact Lifestyle Design Center Setagaya Arts Center
Setagaya Arts Foundation
Carrot Tower, 4-1-1 Taishido,
Setagaya-ku, Tokyo, 154-0004

<https://www.setagaya-ldc.net>

